

C-34 被服構成能率化への基礎研究(第3報) 婦人服胸部原型の自動化について 羽衣学園短大 井手工子

(目的) 前報で胸囲線上長幅示数が婦人の体型の胸のふくらみの程度の違いを示すかなりの手掛りになることがわかった。自動製図では、体型の適確な把握とそれの型紙への反映が重要であることは言うまでもない。そこで本報では、より確かに体型把握の基準を見出すために、胸囲線上長幅示数を取りあげてみた。次に得られた体型の特徴および着用実験の補正結果のプログラムへの導入方法を検討した。

(方法) N女子大生51名を対象に身体計測を行なった。また、胸囲線上長幅示数を求め、得られた各部位の計測値、一般に体型分類に実用的とされている Vervaeck 示数・Robner 示数、胸部原型製図に必要な項目の値ならびに胸囲線上長幅示数間の相関を検討した。さらにランダムに数名を選出し、各自の計測値をもとに綿布で胸部原型を作製し着用させ、補正を行なった結果、それぞれに適合した胸部原型を得た。この補正済みの原型の各部位の寸法を実測し、身体計測値、体型の特徴、胸部原型製図項目との関連を検討した。

(結果) 胸囲線上長幅示数を取りあげて相関を比較検討した結果、胸囲寸法とは $r=0.037$ Rohrer 示数とは $r=0.286$ 、胸囲線上長幅示数とは $r=0.205$ といふ低い相関を示し、あまり関係がないことが認められ、ある程度の体型把握の目安になることがわかった。また数量的に把握された体型の特徴、補正結果をプログラム化する際、XY座標では全ての基準点が常に原点から位置づけられるため、各基準点への影響をできるだけ少なくするよう基準点の設定と製図過程の十分な検討が必要であるといえる。